



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!)◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】世界の一流は「休日」に何をしているのか
越川慎司 著 クロスメディア・パブリッシング
ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年3月1日 Vol. 269
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地
Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

年収の壁

現在、日本においてはいろんな“壁”が存在します。「年収の壁」とは、それを超えると、税金や社会保険料の負担が生じる一定の年収額の境目のことになります。

「年収の壁」には103万円・106万円・130万円と様々な壁があり、その付近の収入で働くパートやアルバイトの人は、手取りが減少したり、扶養者(配偶者・親)の税負担が増えないように、働く時間を調整して年収を抑えている場合もあります。現在「103万円の壁」を123万円に引き上げることや「106万円の壁」の撤廃が議論されています。

特に、103万円の壁を178万円にしようとしている政党がありますが、なぜ178万円まで引き上げることが主張しているのでしょうか。年収の壁の引き上げを提案した理由は、現在の日本社会が抱える労働力不足、女性の社会進出の妨げ、家計の負担増などの課題を解決するためだと言われています。

それでは178万円まで引き上げる根拠は何なのでしょう。178万円という数字は、1995年に103万円の壁が設定されて以降の最低賃金の上昇率を考慮して算出しています。1995年と比較して、現在の最低賃金が1.73倍になっていることから、103万円を最低賃金に合わせて約1.73倍である178万円に引き上げるべきという考えに基づいています。

最低賃金の考え方は、主に3つの観点から成り立っています。1つ目は「生活保障の観点」、2つ目は「経済・雇用のバランス」、3つ目は「地域や産業の特性」から考えられています。



1つ目の「生活保障の観点」は、労働者が最低限の生活を維持できるようにするために設定されます。特に、食費・住居費・教育費などの基本的な生活費を考慮し最低限の賃金水準が決められます。

デフレが続いていた日本が、インフレになってきたことや最低賃金が上がっていることを考えると、178万円に引き上げるといえる考え方はごく自然なことだと言えると思います。

5人の法則

“あなたは、最も一緒に過ごす時間の長い5人の友達の平均になる”。この言葉はアメリカの起業家であり、若くして一流企業のコンサルタントとしても活動し、31歳で億万長者となったジム・ローン氏が残した言葉です。言葉通りの意味ですが、話し方、言葉使い、しぐさ、時間感覚、趣味、思考、年収などあらゆる面で周りの人の影響を大きく受けます。

5人の法則の具体的な例をあげると、「ずっと他人の悪口やネガティブな発言をしている人たちが」周りにいると、自分もそうなります。反対に、「食欲に成長しようとする人たちが」周りにいると、自分もそうなります。このことは収入に関しても、「年収1,000万円の人たちが」周りにいると、自分もそうなるそうです。「年収」に関してはアメリカの研究で実際に証明されています。こうした考え方は、とてもシンプルな法則ですね。

人は自分にとって居心地が良い空間というものを感じています。あまりに自分と違う人たちといると居心地が悪くなります。だから、同じような人たちに引き寄せられます。それはみなさんが、会社員でも起業家でも全く関係なく、みんな平等に働く法則です。

人生は限られた時間の中でしか生きられません。大切な時間を有意義に過ごすために、自分自身の周りを見渡してみることも必要かもしれませんね。



【座右の銘にしたい名言】



神様は私たちに成功して欲しいなんて思っていません。ただ挑戦することを望んでいるだけよ。

マザー・テレサ (カトリック修道女)